

## 交換留学帰国報告書

記入 | 2019年7月  
所属 & 学年 | 名古屋大学大学院人文学研究科 博士課程前期課程2年  
卒業予定 | 2020年3月

留学先大学	リーズ大学
留学先国	イギリス
留学期間	約9ヶ月 (2018年次に留学)
留学開始-終了	2018年9月17日 - 2019年6月26日

### A. 留学に至った経緯や留学準備について

①留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

英語の語学力を求めているので英語圏の国であること、自身が美学美術史学専攻で多くの博物館（美術館）を訪れたかったので館へのアクセスが良いことを考慮し、イギリスに決めました。イギリスは博物館入場料が無料の館が多くその点も魅力でした。イギリスの大学の中でもリーズ大学には美術史学と博物館学の講義が充実していたため同大学に決めました。

②留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

留学前に美術館でアルバイトをしたのですが、学芸員の方がボストンから来た方と英語で会話をしている場面に出会い刺激を受けました。また大学のシンポジウムで海外からのお客様を案内する機会があったのですが、踏み込んだ会話をする事ができず歯がゆい思いをしました。英語を長年勉強していながら会話ができないというのがコンプレックスだったので、英語でコミュニケーションが取れるようになりたいと思ったのが留学を志した直接のきっかけです。

③留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的 & 期間など
フランス	学部1年	観光旅行、滞在期間2週間ほど

④実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

応募したのが2017年11月でその5ヶ月前の6月あたりから留学準備を始めました。7月8月に行われる留学説明会の告知を見たのが準備を始めるきっかけだったと思います。

⑤海外留学室の個別相談を利用した方は相談回数や相談内容、参考になったことを教えてください（利用していない方は、利用しなかった理由や状況など）。

5回程個別相談を利用しました。相談内容は主に自身のIELTSの点数不足についてです。不安が大きかったなか親身になって相談に乗ってくださり、また渡航先大学とのやり取りも仲介していただきました。結果的に希望する大学に行くことができ、精神的な面でも手続き的な面でも非常に助けられました。

## B. 留学前の語学対策や単位などについて

①留学前の語学対策、TOEFLなどの受験回数などについて教えてください。

IELTS を 6 回（2017 年 7 月～2018 年 1 月）受験しました。スピーキングが不安だったため Best Teacher という英会話サービスを利用し講師とスカイプで話をしていました。短期間でリスニングとスピーキングを伸ばすのに苦労したため、語学対策は早めに（応募の 6 ヶ月以上前から）やっておくべきだったなと感じています。

②単位取得、単位互換、教職履修などに関するアドバイスをお願いします。

帰国後の単位互換の認定は必ずしも通るとは限らないそうなので、留学前に取得できる単位は取っておいた方がいいと思います。

## C. 授業や勉強について

①留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG3001 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えてください。

ARTF1045 A Story of Art 1

—毎週 3 講義、各 1 時間

—3 講義のうち 2 回は講義形式の授業で 1 回は演習形式の授業

—美術史概説（古代～近世）

ARTF2051 Seeing in Asia

—毎週 1 講義、2 時間

—隔週でレポートを書く課題がありました

—アジア（中国や日本が中心）の美術についての講義

ARTF2092 The Museum

—毎週 1 講義、3 時間

—個人のレポート、グループでのプレゼン発表があり自身の発表の機会が持てたのが良かったです

—博物館学の講義

ARTF1046 A Story of Art 2

—毎週 3 講義、各 1 時間

—3 講義のうち 2 回は講義形式の授業で 1 回は演習形式の授業

—ARTF1045 の続きとなる講義、内容は美術史概説（近世～現代）

ARTF2047 Image, Music, Text: Reading Roland Barthes

—毎週 1 講義、2 時間

—ロラン・バルトの英訳テキストを読みバルトの考え方を学びました

ARTF3099 Antique Dealers: the Market for 'Decorative Art' from Curiosities to Retro

—毎週 1 講義、2 時間

—課外授業として遠方の美術館を訪れることもしばしばありました

—18 世紀から 20 世紀の美術商についての講義

②授業を受けるにあたって、心掛けていたこと、どんな努力や工夫をしていましたか？

留学当初は授業内容を聞き取るのが困難だったため、日本から持参したボイスレコーダー

で講義を録音し家で復習していました。また、参考文献が大学の学生用個人ページに毎回アップされていたので講義前に読むことを心がけていました。事前に読んでおくと授業の飲み込みがかなりスムーズになります。

③学習面で困ったことはありましたか？どのように解決しましたか？

エッセイを書くうえで適切な単語や文法を選ぶことに苦労しました。Grammarly という英文添削サービスを利用して校正を行い、できるだけ違和感のない文章になるよう努めました。また、参考文献の書き方と引用の仕方について、同じ大学内でも学科ごとに採用している方式が異なるので当初は理解に時間がかかりました。私の学科 (Fine Art) は MHRA 方式を採用しており、大学図書館のホームページに具体的な参考論文の書き方が載っていたのでそれを参考にしました。プレゼン発表の際は現地の友人に自分の発表を聞いてもらい、違和感のない言い方や文法に修正してもらいました。

**D. 大学生活について教えてください。**

①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

現地のリーズは大学が 4 校集まっている学生都市だったため、様々な人種の学生が多く日本人も多かったです。人種に対する偏見なども感じずとても過ごしやすかったです。

②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

大学の校舎内、食堂、図書館、図書館内のカフェ、寮はすべて大学の Wi-fi が通っておりネット環境が非常に良かったです。食堂やカフェの数が多く、麺類、サラダ、ミートパイ、タピオカなどの専門店が学生ホールに集まっていたため食事に苦労しませんでした。図書館は3カ所あり蔵書も多く、自習スペースや充電用のコンセント、プリンターが充実しており過ごしやすかったです。

③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか（具体的にお願いします）？

名大の六浦さんが立ち上げた囲碁クラブに参加し、碁を打ちながら現地の学生と交流を深めました。週に 1 度ヨーク大学まで碁を打ちに行く機会があり、私も時々参加しヨークの囲碁クラブメンバーと交流しました。また、名大に交換留学生として来ていたリーズ大学の友人がいたので、現地で再会しよく食事をしていました。彼女のホームパーティーに誘われることもあったため、そこで彼女の友達と仲良くなったりもしました。

④余暇の過ごし方（授業後や長期休暇など）について教えてください。

授業後は図書館や館に併設されている喫茶店で勉強や読書、ネットサーフィンをして過ごしていました。図書館内の喫茶店は周辺の店に比べ遅くまで営業しており（20、21 時まで）、図書館は深夜まで開館していたので長く滞在でき快適でした。休暇の日はフラットメイトと近くの映画館に行ったり、囲碁クラブで碁を打ったりしていました。長期休暇では日本人の友人とヨーロッパ（ドイツ、ベルギー、スコットランド）やイギリス国内を旅行しました。また、クリスマス休暇には HOSTuk というホームステイ斡旋サービスを通して、リーズ在住の老夫婦のところへ 4 日ほど宿泊しました。その後も連絡を取り合い、3、4 回食事をしたり遠方に旅行へ行ったりしました。

**E. 健康管理、保険、予防接種など**

①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか？

現地で大きな病気にかかりたくなかったので、風邪をひきかけたら日本から持参した風邪薬を飲むなどしていました。一人暮らしだとどうしても栄養不足になるので、現地で買った

たサプリメントを時々飲んで健康管理していました。

- ②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えてください。

指に痺れの症状が出たので1度病院にかかりました。NHS というイギリスの国民保険サービスに登録していたので病院でかかる費用は無料でした。

- ③加入した保険の種類について教えてください。

留学先の大学が用意した「キャンパス保険」への強制加入

\*キャンパス保険でカバーされない部分は、個人保険に加入も含む

個人の保険のみ

キャンパス保険と個人の保険の二重加入

- ④留学するにあたって、予防接種は必要でしたか？

はい（種類：）

いいえ

## F. 住居、食事、マナーなどについて

- ①留学中の滞在先について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> 下宿 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他（ ）
何人部屋	（ 6 ）人

- ②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

生活の中で特に困ったことはありませんでした。キッチンの使い方が汚くて困ったという友人の話も聞きましたが、私のフラットメイトが全員綺麗好きだったので衛生面では何も問題ありませんでした。気を付けていたこととして、寮の部屋は完全防音ではないので夜遅くに大きな音を出さないよう気を付けていました。

- ③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

（持参するとよいもの）

コンセントの変換機…日本のコンセントプラグ（タイプ A）とイギリスのコンセントプラグ（タイプ BF）に対応しているものが現地では少なかったため日本で買って持っていくと良いと思います。

海外電圧対応のドライヤー…日本の電圧（100V）とイギリスの電圧（240V）両方対応のドライヤーが日本国内で買えるので持参すると良いと思います。

サランラップ…イギリスのサランラップは切りにくいので日本のものを持って行った方がストレスは溜まりません。

トイレットペーパー数個…寮の部屋にトイレットペーパーは設置されていないので、到着してすぐ使えるようにトイレットペーパーを数個持っていくと便利です。

スパゲティソース、インスタント味噌汁・スープ…忙しい時の自炊が楽になります。

生理用品…現地の生理用品でも特に問題はなかったのですが、夜用の厚手の物は見つからなかったため心配な人は持っていくと良いと思います。

（持参しなくてもよかったもの）

調味料、インスタントヌードル、米…大学の近くにアジアンスーパーがあったので、かさばる調味料(醤油、めんつゆ、ポン酢など)、インスタントヌードル、米は持参しなくても現地で買うことができます。酒やみりんはあまり見なかったため日本料理を自炊したい人は

持っていくと便利かもしれません。

- ④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

ロンドン留学センター <https://www.london-ryugaku.com/>

## G. 留学費用について

- ①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

カード支払いについて、支払いする度にメールが来る設定をしておくことで不正利用の確認ができるので良かったです。デビットカードは使用可能残高の確認ができるのでクレジットカードよりも安心して使えます。奨学金について、探すと支給型のものも沢山出てきます。申込期限が早いものもあるので、早めに事務の学生支援の窓口にお問い合わせすることをおすすめします。

- ②奨学金はもらっていましたか？

はい

①奨学金名：海外留学支援制度（協定派遣）奨学金 支給額：月々80,000円、

②奨学金名：第一種奨学金（海外協定派遣対象） 支給額：月々88,000円）

いいえ

- ③差し支えなければおおよその留学費用を教えてください。\*内容の費目は自由に変えてください。

内容	金額	備考
渡航費	約 19 万円	往復費用
保険代	約 16 万円	
予防接種・ビザ代	約 5 万円	ビザ代のみ（申請料金 348 £ + パスポート郵送 & 書類チェック 3430 円）
住居費	月々約 10 万円	大学の学生寮（Leodis Residences）に居住
食費	月々約 5 万円	
教科書代	特になし	参考文献は大学のウェブ上にアップロードされていたので教科書は特に必要ありませんでした。

## F. 今後の進路や目標、就職活動について

- ①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

進学

就職

その他（ ）

- ②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

学芸員を志望しています。

- ③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報もお願いします。

留学中の就職活動は行っていません。

## F. 留学を終えて感じること

①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

まず、留学中大きな事故や事件に巻き込まれなかったのにほっとしています。イギリスは個人的にとっても過ごしやすく大好きな国になりました。第二の故郷のように感じています。日本に帰ってきてすぐに寿司を食べたのですが、現地で1か月間和食しか食べられない時期があったので日本料理は恋しかったです。留学中印象に残っているのはやはりヨーロッパの美術館です。その規模の大きさ、作品の質の高さには驚きました。

②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか？

1 番大きな変化は英語の使用に抵抗がなくなり自身の第二言語として比較的自由に使えるようになった点です。英語力が向上したということだけでなく、日常生活で英語を使用することが自然になりました。例えば、ネットでの情報収集を日本語だけでなく英語でも行うようになる、英語話者の動画チャンネルを見るようになるなど。英語に対してテスト科目の一つではなく自身の使える言語の一つという感覚が強まったのは自身にとって非常に良かったと思います。これは留学中、周りの友人の中に英語と母語の2か国語を当たり前で扱える人が多かったことに影響を受けていると思います。香港人と中国人の友人は英語を母語並みに扱えるので、同じアジア人でも英語力にかなり差があることを実感しました。また、コンプレックスであった英語のリスニングとスピーキングは留学で確実に向上したと感ずきます。ネイティブのような会話には及びませんが、英語での自然な言い回しや単語を感覚で理解することができるようになり嬉しかったです。

また、社会問題に対する関心が高まりました。フラットメイトがフランス人、スペイン人、中国人、香港人、日本人と様々で、彼女たちの考え方や母国の話、料理の話をする中で日本との違いも実感しましたし、友人の国を知りたいということで国際問題にも目を向けるようになりました。私の留学は日本の改元とイギリスのブレグジットが重なっていた時期だったのでニュースも現地をよく見ていました。

③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

語学という点について、実際に英語力が上がるという成績の面だけでなく、自身にとって英語の使用が当たり前になるという精神的な面で留学はとても良い経験になります。英語を自身の第二言語として自然に使えるようになる、というのは留学後の人生において大きな意味を持つのかなと思います。留学前のアドバイスとして、私はIELTSの必要点数を取るのにかなり苦労したので早めの準備をおすすめします。留学をお考えの皆さんが希望する国や大学に行き様々な学びを得ることができますよう応援しております。

#### ◆自由記述欄◆

渡航先の大学や留学の様子がわかる写真（メール添付でも可）があれば下記へ。この報告書はウェブや印刷物として公開する予定ですので、被写体の人物へ使用についてあらかじめ確認をお願いします。

↓↓↓

以上